

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

ユーロ/円に注目

<ポイント>

- ◆昨日は、ドイツ 10 年債利回りの 1.0%への接近と共にユーロが続伸したのが特徴的だった。ただしその後はギリシャの対 IMF 債務支払い延期を受けて反落している。
- ◆ドル/円は、日銀審議委員発言や米単位労働費用に反応するかたちで上下に振れたが、124 円台前半で方向感は出なかった。
- ◆本日は米雇用統計が焦点で、非農業部門雇用者数が月間 20 万人超のペースを維持できるかだけでなく、平均時給前年比が加速するかも重要で、両方とも市場予想を上回る場合にはドル/円は再び 125 円を試す展開となりそうだ。
- ◆他方、ユーロを巡っては、ドイツ 10 年債利回りの続伸リスクやギリシャの目先のデフォルトリスク後退といったユーロ支持要因があることから、雇用統計後にドル買いとなる場合でもユーロ/ドルは下がりにくく、ユーロ/円ロングに妙味がありそうだ。

昨日までの世界:ドイツ 10 年債利回りの上昇は一服したか?

ドル/円は、124 円台前半を中心に上下に振れる展開だった。東京時間夕方には積極金融緩和姿勢が期待された原田日銀審議委員が「過度の円高は修正された」としてこれ以上の円安を望まないとも取れる発言をしたことから、一時 123.78 円へ下落する局面があった。地方債買入や付利金利引下げなどの追加緩和手法への言及、円安は日本経済全体にとってプラスとの発言もあったが、あまりハト派的ではない部分に新味があり注目が集まった。もっとも、その後 NY 時間入りにかけては、インフレ指標の一つである米 1Q 単位労働費用(確定値)が前期比年率で+6.7%と前期の+5.6%、速報の+5.0%、市場予想の+6.1%を大きく上回ったことなどから反発に向かい、一時 124.68 円の高値を付けた。

ユーロ/ドルは、欧州時間入り後にドイツ 10 年債利回りの上昇が続き、一時 1.0%に近づいたことからユーロ/ドルも 1.1380ドルへ続伸し、5 月 15 日に付けた直近の戻り高値(1.1467ドル)に近づいた。もっとも、その後ドイツ 10 年債利回りが反落に向かったことでユーロも反落したほか、ギリシャが 5 日に期日が到来する対 IMF 債務約 3 億ユーロについて、今回は支払わず、6 月の 4 回分を月末に一括返済する方針を表明したことから続落し、一時 1.1219 ドルへ下落した。ただし、こうした支払い形態は制度上可能とされており、可能性が事前に取りざたされていたこともあり、青天の霹靂という訳ではなかったことから、市場の混乱には至っていない。

ユーロ/円もユーロ/ドルとほぼ同様の動きとなり、一時 141.06 円へ続伸した後、140 円割れへ反落した。

豪ドル/米ドルは、豪 4 月貿易収支が-38.88 億豪ドルと予想を大きく上回る赤字幅となったほか、同時発表の豪 4 月小売売上高も前月比ゼロ%と市場予想(+0.3%)を下回ったため、0.77 ドル台後半から 0.77 ドル台前半へ、更に NY 時間には米経済指標発表を受けた米ドル高基調もあって続落、一時 0.7664 ドルの安値を付けた。

豪ドル/円も豪ドル/米ドル相場とほぼ同様の動きとなり、96 円台後半から一時 95.43 円へ下落した。

きょうの高慢な偏見: ユーロ/円に注目

[今週の見通しはこちら\(5月29日付FX戦略ウィークリー\)](#)

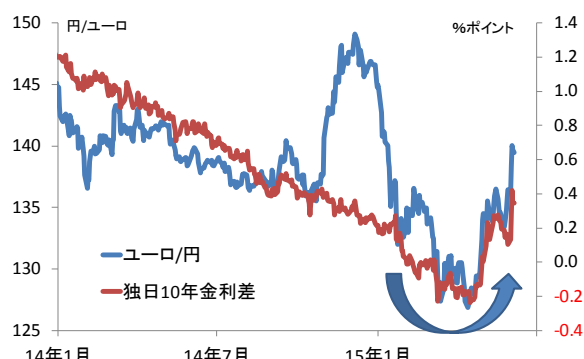
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、米雇用統計が焦点となる。非農業部門雇用者数が月間 20 万人超のペースを維持できるかだけでなく(市場予想は+22.6 万人、前月+22.3 万人)、平均時給前年比(前月、市場予想ともに+2.2%)が加速するかも重要で、両方とも市場予想を上回る場合にはドル/円は再び 125 円を試す展開となりそうだ。

ユーロ/ドルも、米雇用統計が予想比良好な結果となる場合にはドル高ユーロ安圧力がかかる。もっとも、ユーロを巡ってはドイツ 10 年債利回りの続伸リスクがユーロ支持要因となるほか、本日期日の対 IMF 債務(3 億ユーロ)についても支払いが月末に延期されたため、目先のデフォルトリスクは後退したとも言える。特に、米雇用統計が予想比良好な結果となる場合、米国債と連動性が高いドイツ 10 年債利回りにも再び上昇圧力がかかる。このため、良好な雇用統計に対しては、ユーロ/ドル売りの妙味は小さく、むしろドル/円上昇の恩恵も受けるユーロ/円ロングに妙味がありそうだ。

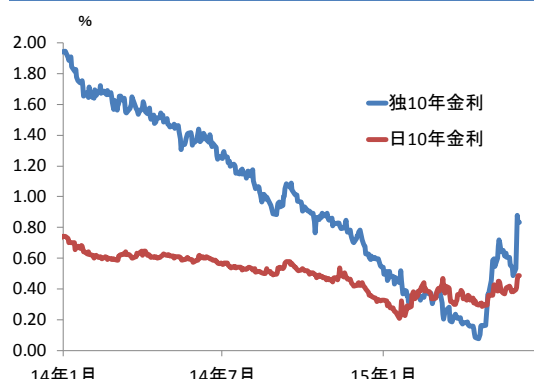
豪ドル/米ドルも、米雇用統計の予想比上振れ時には下押し圧力がかかる。昨日の豪貿易赤字の急拡大もあって再び下落方向となっていることから、豪ドル/米ドルは 1 日につけた直近安値である 0.7598 ドルを再び試す展開もありそうだ。

独日10年金利差とユーロ/円



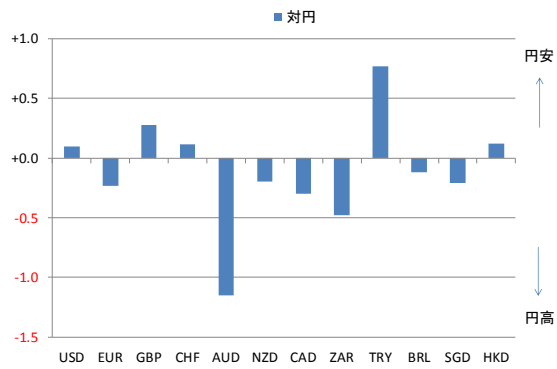
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ドイツと日本の10年債利回り



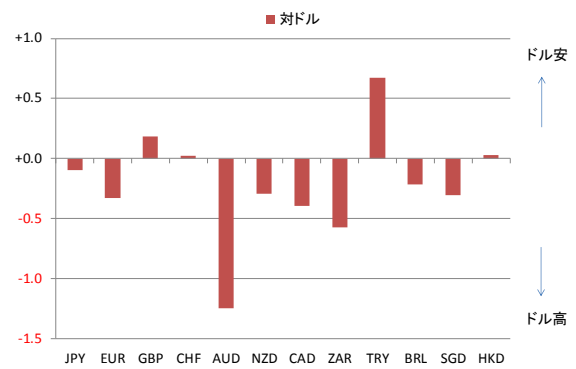
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



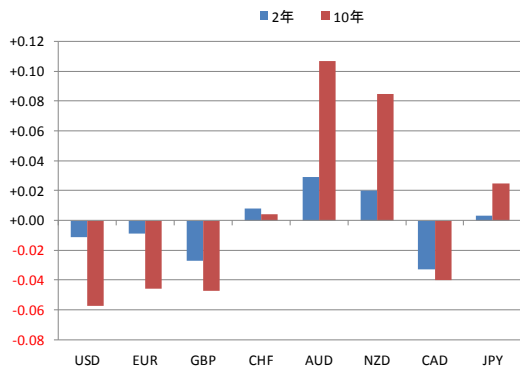
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



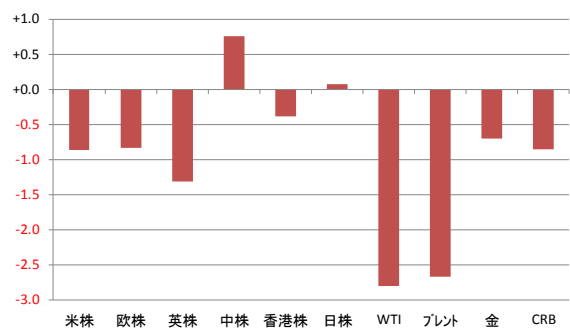
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会